

国文学研究資料館報

第33号

平成元年9月

国文学研究資料館の

「移転」について

小山 弘 志

政府は八月二十四日、東京都二十三区内の政府機関六十八の移転先・移転候補地を決め、翌二十五日の各新聞で報道された。その中には国文学研究資料館が含まれており、移転先・移転候補地は東京都立川市となっている。ただし、立川市内の具体的な場所や面積、また移転の時期は未定である。

ここに至った経過について、当館の対応を含めて略記する。

(1) 一昨昭和六十二年十二月十六日、東京都二十三区内に所在する大学・大学共同利用機関・直轄機関の担当部長が文部省に召集され、総務審議官より移転に関する趣旨の説明を受け、それについての考えを数日後に示すように、

また調査票を二十五日までに提出するように求められた。移転問題はここに始まる。

移転に関する趣旨の内容は大略次の通りである。

首都圏の土地問題解決策の一つとして、竹下総理大臣が政策大綱を決定した。その基本方針は「人口や諸機能の東京一極集中を是正し、地域の活性化を図ることにより、多極分散型国土を形成し、もって土地問題の根本的解決と国土の均衡ある発展に資する」とことであり、その政策遂行の手始めとして「一省庁一機関」の地方移転を推進する。文部省としてもこの方針に添わね

ばならない。

(2) この数日後に、当館は文部省の所管課長(学術国際局学術情報課長)に次のような意向を表明した。

ア 当館は広く研究者一般への閲覧サービスを重要な業務として

イ また、研究・業務において広く館外者の支援を必要とする。

ウ 東京以外に移転した場合、東京周辺居住者はかりでなく全国各地の研究者一般に対して、サービスの低下はまぬがれがたく、また館外の研究者の援助が十分には得にくくなる。

エ したがって直ちには移転に

応じにくい。

右の意向に対して、所管課長より、国の施策でもあり、また館の将来を考えると、研究・業務の発

展拡充のためには、広い土地へ移

転したほうがよいのではないか、

という見解が示された。

(3) 現在の当館の敷地は、都市公園法に基づく「東京都市計画公園緑地」に指定されていて建蔽率が厳しく、現在の建物はその限度

一ぱいのもので、これ以上は増築

できない状況にある。

昭和四十七年の創設以来、館の

研究や業務は着実に進展し、十五年

以上経過した現在、建物は狭隘

となつてゐる。すなわち、整理閱

覧部の事務室や情報処理関係設備

を拡張・増強する必要があり、デ

ータベース作成などの研究補助者

の作業室、共同研究員や内地研究

員など各種研究員の研究室、大学

院学生のための研修室などを設け

ねばならないのに、現状では不可

能なのである。

以上のような事情があるので、

当館は移転を前提とする方向で考

えることにして、当初は部長会議

で、やがて「移転問題検討会議」

目次

国文学研究資料館の「移転」について	1
小山弘志	1
開館正直草稿の審議について	2
文庫資料部事業報告・長谷川謙	3
研究情報部事業報告・山中光一	4
整理閲覧部事業報告・本田康雄	6
マイクロ資料目録のCD-ROM	7
パージョンの試作について・安永高志	7
新取資料紹介(くらひの大事他)	8
第十三回国際日本文学研究集会	9
論報	9
文庫紹介(八戸市立図書館南部分庫)	10
百仙洞文庫	11
評議員・運営協議員・委員等名簿	12
利用者へのお知らせ	13
平成元年年度休学会開催一覽	16

を設けて検討を続けて来た。

(4) 移転するに当っては、当館が単なる研究機関ではなく、研究者へのサービス機関でもあることにかんがみ、次の条件を満たすことが必須であるむね、文部省に要望した。

ア 閲覧サービスの利用者である研究者・学生にとって交通至便の場所であること。

イ 当館の機能達成のための館外支援体制が維持できる場所であること。

ウ 敷地面積が十分確保され、独立したキャンパス方式であること。

エ 職員宿舎や共同研究員などの宿泊施設が確保できる場所であること。

イで言う「館外支援体制が維持できる場所」とは、具体的には次のような場所である。

① 研究・業務の遂行のための各種委員会の委員、研修会・講演会などの講師として、国公私立の大学教官等の支援協力を受けるのが比較的容易である場所。

② データベース作成などの補助者として、大学院学生程度の国文学や国史学の知識を有する人

を、多数、確保することの可能な場所。ちなみに、現在、毎年約二〇〇人、延四〇〇〇人のこれらの人々の協力を得ている。

以上の要望事項は、文部省はじめ関係省庁からの調査に対して、そのつど記載して現在に至っている。

(5) その後、「一省庁一機関」ではなく、東京都二十三区内の政府機関は、事実上、移転すべきものとされるに至った。

(6) 昭和六十三年六月十四日に「多極分散型国土形成促進法」が施行され、同年七月十九日「国の行政機関等の移転について」の閣議決定が発表された。移転すべきものとされたのは七十九機関、十一部隊。そのうち文部省関係は、当館を含む九機関である。

(7) 移転先候補地として、国土庁の資料による大宮市・千葉市幕張・横浜市など、それに知人より紹介されたものを加えて検討し、条件に叶いそうな八地区の現地を担当者が視察した後、立川市(旧立川飛行場跡地)・朝霞市(旧米軍キャンプ跡地)・川崎市津田山(民有地)には館内教職員有志も現地視察を行った。

(8) 一方、文部省においては

「省内推進連絡会議」が昭和六十三年九月六日に設置され、移転対象機関のうちの四機関(当館・国立極地研究所・統計数理研究所・国立国語研究所)の候補地を立川市とする方針で、当該機関の意向をも聞きつつ国土庁と折衝を開始した。当館は、面積の確保などが可能であるならば、交通の便などから、示された範囲内では立川が適地であると考え、そのむねを文部省に伝えた。立川市長より文部大臣に四機関の移転要請がなされ、国有財産の管理機関である大蔵省理財局に対して、国土庁から文部省四機関の旧立川飛行場跡地への移転についての折衝が行われ、これらの結果、八月二十四日の発表

になった次第である。

前述のように、当館敷地としての具体的な場所や、用意される面積、また移転時期は未定である。

保留された三機関を除いても七十六機関ある。これらのすべてが短期間に移転することは困難であろう。したがって、やがて移転の順序が定められるのだろうか、その計画が示されていないので、当館が比較的早い時期の移転になるのかがどうかさえも、今のところ全く見当がつかない。なお、移転候補地のあたりには、数年のうちにはモノレールが開通することになっており、立川駅から一つ目の駅が候補地付近にできる予定のよしである。

(館長)

関根正直草稿の寄贈について

関根俊雄氏より関根正直草稿その他の寄贈があった。和綴の自筆草稿が主で、有職故実関係、戯作関係、講演、伝記など七一点。他に岡本保孝(況齋)の詳細な書入および識語「庚寅秋九月廿六日夜

就友人前田夏隆以日光山神庫本群書類従本所校訂之本比較一過岡本保孝志」(朱書)のある「法曹至要抄」(版本、三卷三冊)とその注疏草稿、また「大正十五年御講書始の講案及び御前原稿」がある。

文献資料部 事業報告

長谷川 強

本年度も第一回の収集計画委員会を五月二十三日、調査員会議(総会)を同三十日に開催、その計画によって既に調査に収集に各位のお力添えを得ている。

地価の高騰が叫ばれて久しいが、近時の古書価の高騰も研究者にとってはそれに劣らぬ感じを持つ。身銭を切つて研究資料を集めることは、研究者に当然の心掛けであつたはずであるが、それも夢物語になりはせぬかという危惧を覚える。当部の任務はますます重い。一層の御理解と御援助をお願いするものである。

昭和六十三年国文学文献資料調査・収集の概況

一、調査

現年度は、本年三月末までに左の七四箇所(予備調査Ⅱ*印を含む)の所蔵資料計一一九一〇点を調査した。

北海道東北地区(順不同、敬称略、一部略称、以下同じ)
函館市立函館図書館・伊達市開拓

記念館・弘前市立弘前図書館・盛岡市中央公民館・秋田県立秋田図書館・象潟町郷土資料館・宮城教育大学附属図書館・仙岳院・酒田市立光丘文庫・鶴岡市郷土資料館・天野家

関東地区

彰考館・茨城県立歴史館・矢口丹波記念文庫・抱谷文庫・東洋文庫・東京芸術大学附属図書館・東京芸術大学附属図書館(協本文庫)・東京大学史料編纂所・法政大学能楽研究所(鴻山文庫)・宮内庁書陵部・東京都立中央図書館(特別買上文庫)・東京都立中央図書館(東京誌料)・尊経閣文庫・大倉精神文化研究所

中部地区

新潟大学附属図書館・弥彦神社・高岡市立中央図書館・金沢大学附属図書館・石川県立図書館(李花亭文庫)・上田市立図書館(花月文庫)・上田市立図書館(花春文庫)・信州大学教育学部・諏訪市立図書館・名古屋市蓬左文庫(尾

崎コレクション)・名古屋大学附

属図書館(神宮皇学館文庫)・愛

知県立大学附属図書館(古俳書

(二))・愛知大学図書館(菅沼文

庫)・藤園堂文庫・大須文庫(真

福寺)・西尾市立図書館(岩瀬文

庫)・神宮文庫

近畿地区

西教寺・浄嚴院*・水口町立図書館・園部町教育委員会(小出文庫)・京都大学文学部(頼原文庫)・立命館大学図書館・陽明文庫・壽岳章子・温泉寺・大阪女子大学附属図書館・池田文庫*・大和文華館・堺市立図書館*

中国四国地区

萩市立図書館・西円寺・広島市立中央図書館(浅野文庫)・三原市立図書館・鳥取大学附属図書館・益田家・善通寺*・志度寺*・鎌田共済会図書館・多和文庫・松本真一・大洲市立図書館・四国女子大学附属図書館(凌霄文庫)・高知県立図書館(山内文庫)

九州地区

多久市教育委員会(多久市郷土資料館)・鳥原図書館(松平文庫)・熊本大学国文学研究室
海外
イェール大学バイネッキ図書館・

米国議会図書館

二、収集

本年三月末までに左の三六箇所
の所蔵資料計四九四九点を収集した。

北海道東北地区

盛岡市中央公民館・秋田県立秋田図書館

関東地区

抱谷文庫・抱谷文庫(カラー撮影)・東洋文庫・東京芸術大学附属図書館・福田秀一・法政大学能楽研究所(鴻山文庫)・宮内庁書陵部・尊経閣文庫・国立国会図書館

中部地区

金沢市立図書館(稼堂文庫)・加賀市立図書館(聖藩文庫)・上田市立図書館(花月文庫)・二澤久昭・大西正一・久山勝彦・武井芳久・名古屋市蓬左文庫(尾崎コレクション)・大須文庫(真福寺)・藤園堂文庫・刈谷市立刈谷図書館・新城市教育委員会(牧野文庫)

近畿地区

京都大学文学部(頼原文庫)・立命館大学図書館・園部町教育委員会(小出文庫)・陽明文庫・大和文華館・大阪女子大学附属図書

館・住吉大社（神社本）・浄照坊
中国四国地区

岩国徴古館・多和文庫・今治市河
野美術館・高知県立図書館（山内
文庫）

九州地区

熊本大学附属図書館（北岡文
庫）・熊本大学国文学研究室
海外

カリフォルニア大学バークレイ校
の分は先方の都合で到着が平成元
年度になった。

右の内国内の分については既製の
マイクロフィッシュの購入を当て
たものを含んでいる。

平成元年度文献資料調査・収集計
画

本年度は調査八二箇所（海外を
含む）七三〇点、収集四七箇所
（同）五四八〇点の計画を立て、
順次実行に移している。

海外資料の調査・収集

昨年度に続き科学研究費補助金
（海外学術研究）の交付を受けて、
イェール大学・議会図書館の資料
調査を行った。小峰・山崎・竹
下に館外よりいわき明星大の田嶋
一夫教授の御参加を得て、八月二
十日出発、九月五日に無事帰国し
た。

収集は、カリフォルニア大学バ
ークレイ校の他、イェール大学バ
イネッキ図書館にも出願の予定で
ある。

第四室

本年度は客員教授として中央大
学文学部の大曾根章介教授をお迎
えし、五月の調査員会議には「本
朝文粹の成立」の題で御講演願
い、業務、研究に御協力いただいで
いる。併任助教授には、前期は熊本
大学文学部の森正人助教授、後期
は名古屋大学文学部の長島弘明助
教授にお願いしている。

その他

地区会議は十月下旬、中部地区
は名古屋、北海道東北地区は秋田
で開催の予定。

昨年度の報告にした、抱谷
文庫、尊経閣文庫、藤園堂文庫に
ついては予定通り仕事を進めるこ
とができた。御所蔵者各位に御礼
申上げる。なお抱谷文庫は、故大
久保忠国氏のお集めの浮世絵で演
劇資料として有効な利用の期待で
きるものを、別にカラーで撮影さ
せていただいた。名古屋の藤園堂
主伊藤健氏は本年五月に急逝され
た。改めて御厚情に御礼申上げ、
御冥福をお祈りする。

部内の異動は、渡辺守邦教授が
実践女子大学文学部に、吉海直人
助手が同志社女子大学学芸学部講
師に四月一日より移られ、渡辺教
授は当館名誉教授となられた。多
年の御尽力に感謝し今後の一層の
御発展をお祈りする。後任として
整理閲覧部より岡雅彦助教授、京

研究情報部事業報告

山中光一

昭和五十七年以来七年間精力的
に研究情報部のために尽力された
棚町知彌前研究情報部長が三月退
官され、本年度から私が部長の職
を担当することとなった。

今回は昭和六十三年度の事業報
告であるが、四月から発足した平
成元年度の研究情報部の体制につ
いてはここにまとめて報告する。

棚町知彌教授の後任として新井
栄蔵教授が奈良女子大から着任さ
れ編集室長を担当されることにな
った。また後任が決まるまでとい
うことで東大へ転出後一年間当館
併任であった堀浩一助教授の後任
に東大から松方純助教授が着任し
た。

またかねて懸案であった論文デ

都大学院出の深沢真二助手を
迎えた。

伊藤千代補佐員は二月に小原く
み子補佐員と交替した。

本年度も変らぬ御指導・御協力
をいただくようお願い申し上げます。

（文献資料部長）

ータベースのオンラインサービス
の事業化も、いよいよ最後段階と
なったので、六月一日から館内措
置により研究情報部にデータベ
ース準備室を発足させ、準備の促進
をはかることになった。

以下は昭和六十三年度の各室の
事業の報告である。

情報室

情報室では、館報発行、新聞情
報の収集、国際日本文学研究集会
の開催業務を担当しており、順調
な進捗をみた。

館報は例年どおり二回発行、第
30号より開始した「新収和古書
抄」は、幸い好評で、32号に第二
回目を掲載、今後も継続してのせ
ていくことにした。また32号の巻

頭に載せた「藤園堂文庫調査の記」(岡本勝氏)は、発行直後、藤園堂主人伊藤健氏の訃報に接し、はからずも追福の一文となった。

国際日本文学研究会は十一月十一日十二日の二日間にわたって開催され、九つの研究発表と、カレン・ブラゼル当館客員教授、郡司正勝早稲田大学名誉教授の公開講演が行われた。参加者はのべ九十五名、うち海外からは約三十二名であった。

編集室

『国文学年鑑』(昭和六十二年版)を三月末刊行した。この年鑑から大きく変わったことは、近代文学の論文目録の配列を従来の時代別から、作家別に整理できちものを五十音順の作家別に改めたことである。各作家内の論文は一般的なものから個別作品論に及ぶように配列し、作品論は作品の五十音順に並べてある。そして掲載順作家細目を目次末に一覧で示した。最も数の多い近代の作家論、作品論を時代別に配列するのはかなり困難で、手間のかかる割に正確を期し難く、使い易くもなかったからである。

六〇年版からは雑誌論文目録を、

六十一年版からは単行本目録その他をもCTS(コンピュータタイプセティング)により印刷するようにシステム開発を行ったので、六十二年版からは最初からCTS用のデータシートにデータを記入し、一覧、索引等もコンピュータ支援により作成された。しかしその過程でいくつか改善すべき点があり、また印刷所との間に若干理解の差があったり、また印刷所が消費税との関係で年度末の業務が滞積していたりで当初の作業スケジュールが遅れがちであった。次年度からはよりスムーズに刊行できることを期待している。

年鑑印刷のCTS化により今後は毎年の論文目録等のデータが同時に磁気テープで納入される見通しが立ったので、論文データベースのオンラインサービスも本格的に準備を開始することになった。そのため本年度から論文データベースの予算項目が立てられ、自動的に用語を切り出し、カナ付けするためソフトウェア HAPPY-24の導入され、これを使用して論文タイトルから用語を切り出し、カナ付けを行い、それを人が判断してキーワードとして付加

することができると周辺プログラムを開発、ただちにテストを行った。また、論文データベースのオンライン検索サービスを行うための事業用の検索システムすなわち、なれない利用者にも使い易く、かつ、利用者管理、課金処理が自動的に行なえるシステムについて、情報処理室と協議し基本設計を行った。

情報処理室

電子計算機の運用・運転を除く昭和六十三年度事業は、以下のようを実施した。

(一) 目録作成

定常的な業務として

① 国文学研究資料館マイクロ資料目録(一九八八)

② 国文学研究資料館蔵逐次刊行物目録(一九八九)の版下作成を行った。

(二) データ入力等

上記目録用データ及びその他のデータ合せて七一、六七〇件のデータ入力を行った。

(三) システム開発

以下のシステム開発を行った。

① 古典籍マスターファイル作成システム開発

古典籍総合目録データベース

のマスターファイルを作成し、多様な用途に応ずるシステムを開発した。古典籍総合目録出版へのCTS用マスター作成に用いられる。

② 和古書目録データ形式変換システム開発

当館所蔵和古書目録のデータを古典籍総合目録に取り込むためのデータ形式変換を行うシステムである。

③ 論文データベースのオンライン公開システム開発(基本設計)

平成2年度に公開予定の論文データベースの検索システムの基本設計を行った。なお、平成元年度には詳細設計、コーディング等を行う予定である。

④ 計算機利用状況管理システム開発

計算機の利用状況、グラフ等を自動的に作成するためのシステムを開発した。

なお、マイクロ資料目録総索引をCTSにより出版するための開発を行った。

(研究情報部長)

整理閲覧部事業報告

本田 康雄

当部が担当する業務（資料の受入、整理、保存、利用サービス及び参考業務、公開講演会の開催、展示等）は、昭和六十三年度も順調に進展した。

また、昭和六十年度から保存用ネガフィルムの外部保管委託を実施しているが、昭和六十一年度収集分九五五リールを追加委託し、総計一五、〇七一リールとなった。列年実施している監査に際しては、監査実施要領に基づき当部からも検査員を派遣し、保存用ネガフィルムの保管状況等を検査した。

部内の異動は教官では平成元年四月一日付で岡雅彦助教が文献資料部へ移り、三月三十一日付で小野尚志助手が帝京大学文学部助教に就任した。後任として名古屋大学大学院修了の加藤洋介助手を迎えた。

事務官では、昭和六十三年四月一日付で大石博昭事務官が横浜国立大学へ、鈴木康生事務官が名古屋大学へ転出し、後任として伊藤

雅子事務官が着任した。

(一) 整理閲覧室

(1) 資料の受入

昭和六十三年度の受入資料数は、マイクロ資料（ロールフィルム一七六七リール、紙焼写真本一、九八冊）、図書（一〇、三二六三冊）逐次刊行物（継続受入雑誌一、七一六誌—全所蔵タイトル数三、三三六タイトル）、雑誌製本（三五〇冊）であった。その結果、昭和六十三年度末での全蔵書数は、別表のとおりとなった。

(2) マイクロ資料の整理

マイクロ資料の整理は、多和文庫他二二文庫、七、二一〇点を終え、「マイクロ資料目録一九八八年」を刊行した。

(3) 図書資料の整理等

約二、〇〇〇点の新刊書を整理し、カード目録を作成した。帙作成、補修を例年通り行った。

(4) 古典作品典拠ファイル作成事業

約六五、〇〇〇件のパンチ、校正を終えた。本事業は五年計画の

最終年を迎えたが、パンチ件数は当初目標を大きく上回り、約二三五、〇〇〇件に達した。次年度以降も、「国書総目録」（約四十万件）全項目のデータベース化をめざして、作業を継続する予定である。

(5) 古典籍総合目録作成事業

これまで蓄積してきた九〇、〇〇〇件余の書誌データを収録した印刷冊子体目録を、岩波書店より刊行することが本決まりとなり、データの整合性チェックや版下形式での見直しをはじめ、刊行に伴う追いつみの作業に全力を傾けた。また、当館蔵の和古書も収録することになり、既存の和古書目録データの形式変換、取り込みの作業も平行して行った。古典籍総合目録は「国書総目録」の続編として来年二月には刊行される予定である。

(6) 閲覧業務

昭和六十三年度は、来館利用による入室者数が七、九二八人（一日平均二九人）、文献複写が二〇、七二〇件（一日平均七六件）であった。前年度に比べて、入室者数はや、減少したものの、文献複写は増加した。利用登録者は累計（三月末まで）で二〇、九五八人

に達した。一方、相互利用（郵送による文献複写・貸出）の申込受付は、二、二四六件で前年度に比べて大巾に増加した（五〇％増）。当館では、共同利用機関として、国文学の研究資料センターとして、直接来館することのできない遠隔地の利用者を援助する意味で、相互協力サービスを積極的に行っていきが、今後はさらに力を入れていきたい。

また、例年どおり、四月末から五月上旬にかけて資料のくん蒸、三月末に蔵書点検を実施した。

なお、本年一月から国の行政機関は、第二・第四土曜日の閉庁が実施されたが、当館では従来どお

所蔵資料統計

(平成元年3月末現在)

資料種別	点数	冊(リール)数
マイクロ資料	マイクロフィルム*	87,572点 19,181リール
	マイクロフィッシュ	3,680点 11,143枚
	紙焼写真本	55,468点 45,310冊
図書(古書及び新刊書)	25,919点	76,177冊
逐次刊行物	3,336誌	90,585巻号冊
寄託図書	141点	178冊

*他に紙焼写真による収集がある。

り土曜日(午後も)も閲覧業務を行うことになった。

(7)マイクログ資料の加工

熊本大学附属図書館(北岡文庫)他三十五文庫、一、一三四リールの作業用ネガフィルムを複製、整理した。閲覧用ポジフィルムは、一、〇三五リール複製し、六十三年度収集分の加工をほぼ終了した。紙焼写真本は、一、九九八冊複製し閲覧に供している。

(二)参考室

(1)参考業務

日常業務として、参考質問の受付・回答に従事し、参考図書の実査と参考開架閲覧室の維持にあたった。

(2)公開講演会及び展示会

国文学の普及業務として、次のとおり公開講演会・展示会を開催した。

●公開講演会

第28回(6月4日、於当館)

「馬琴の中国小説評」徳田武(明治大学教授)、「世界の中の日本文学」池田重(青山学院大学教授)。

第29回(10月29日、於熊本市・熊本市立図書館)

「熊本の文明開化―新聞小説の発生―」本田康雄(国文学研究資料館教授)、「細川幽齋の文事」荒木尚(熊本大学教授)。

●第11回夏期公開講演会「仏教と文学」(7月28日〜30日、於当館)

28日「源氏物語の仏教―光る君の場合―」丸山キヨ子(東京女子大学名誉教授)、「中世話話―遁世者の面影―」三木紀人(お茶の水女子大学教授)。

29日「西行の和歌に見られる迷いの諸相」高木きよ子(東洋大学教授)、「日蓮の法語」今成元昭(立正大学教授)。

30日「日本禅僧の詩」中川徳之助(比治山女子短期大学教授)、「説教と話芸」関山和夫(仏教大学教授)。

●常設展示

第38回「和書のみまごま」(4月11日〜6月18日)。

第39回「名所と文学」(7月18日〜11月12日)。

第40回「狂歌」(11月28日〜3月24日)。

なお、第11回夏期公開講演会の筆録集である「仏教と文学(国文学研究資料館講演集10)」を刊行し、大学図書館等への寄贈のほか、希望者にも配布している。

(整理閲覧部長)

マイクログ資料目録の

CD-ROMバージョンの試作について

研究情報部 安永尚志

科学研究費補助金による試験研究(1)「国文学データベースのCD-ROMによる出版・利用に関する実用化試験研究」(代表・小山弘志館長)の研究成果の一つとして、CD-ROM並びにその検索システムを試作した。

本研究のねらいは、

①新しいメディアへの挑戦

②目録型データに適したデータ構造索引を含むと検索機能の検討

③国文学の特徴を生かした検索機能の検討

④パーソナルな環境でのデータベース利用方式の検討

等があげられる。

CD-ROMには、当館でオンラインサービス公開中のマイクログ資料目録データベースを格納することを試みた。約一〇万件で、約一〇〇MBの容量のデータ(索引データを含む)であるので、蓄積メディアとしても、CD-ROMが最も適していると考えられる。容量的には、まだ四〇〇MB近い容量があり、あと五十年分位のマイクログ資料目録を蓄積することが可能である。

本研究の成果として、パソコン上で運用可能な検索システムが試作されている。コンピュータに慣れない利用者を想定した簡易メニュー方式による検索システムと、やや高度な利用が可能なコマンド方式の二種類を開発した。いづれも、目下科研分担者やあるいは図書館現場での利用実験を進めている段階である。年度内には、一応の評価分析を終了の予定である。主たる特徴としては、国文学に適切と思われるソーラス機能の実現、JIS外文字を使用可能としたことなどがある。

動作環境としては、とりあえず最も普及していると思われるNEC社製パソコンPC9801シリーズを開発対象としている。CD-ROMドライブが必要で、これには各社製品(NEC、ソニー、日立等)を考慮している。

興味のある方は、情報処理室までご連絡下さい。

なお、本年度以降古典本文テキスト等の蓄積について検討する予定である。

新収資料紹介 ⑳

くらひの大事 他

室町末期の謠伝書。厚手の楮紙十枚の継紙で、紙高一八・五種、全長八三〇種。料紙の長さは第一紙（五二種）と最終紙（一三種）を除いて各九五種程度。本文は一行一二〜一六字程度で全四六〇行。室町末江戸初期写。朱で区切点、濁点、鉤印を付す。また、振り仮名や濁点、補訂などが別筆で加えられている。冒頭に「くらひの大事」と題した百十番の曲の位についての記事があり、「右百十番のくらひ書二百番にあたるへき者也」の識語のあと、「又扇之大事」（二条）、「まくのあけやうの大事」（五条）、「おもての大事」（二条）、「心之大事」（二条）と、演能についての心構えを記した条が続く。

巻末に

右此大事観世弥次郎
書物慥写進入申者也

観世小次郎

元龜元年五月三日元頼
の識語あるも、花押はなく元頼自
筆とは断定しがたい。

本書は、観世宗家蔵「観世小次郎書」に代表される、音曲秘伝と

大事条々からなる元頼伝書の一
本で、同内容の記事は、多くの室
町末期伝書に見られる。その性格
や各伝書との関係については、表
章氏に「室町末期の謠伝書の性格
―「節章句秘伝之抄」考―」（日
本文学誌要）15・17号、「能楽史
新考」所収）の詳細な御研究があ
り、「節章句秘伝之抄」に含まれ
る「音曲秘伝之抄」・「大事条
々」については、同氏による翻印
校訂が「細川五部伝書」（法政大
学能楽研究所編「能楽資料集成」
2）に収められている。表氏がそ
こで提起された問題の幾つかは、
本書の出現によって新たな解答を
得られるかも知れない。本書の著
しい特長は、「音曲秘伝」に相当
する記事が他の諸本では八十九番
のみであるのに、百十番すべての
記事が揃っている点である。しか
も曲の順序には、秩序立った配列
意識が感じられる。奥書について
も神宮文庫本「塵芥抄」に見られ
る「右ハ観世弥次郎大事慥写者也
元龜元年五月五日観世小次郎元頼
永田源十郎殿」の識語との関係が

注目される。しかし、一方で「大
事条々」に相当する記事が、百条
近い大事のごく一部、わずか十一
条に過ぎないことが、元頼伝書の
成立や書写過程の複雑さを示唆し
ている。

「くらひの大事」にある百十番
の曲名は以下の通り（右上に*印
のある曲は「音曲秘伝之抄」に記
事のないもの）。

- *うの羽・*難波の梅・*玉の
井・*老松・くせの戸・くれ
は・高砂・実盛・やしま・あひ
ら・清経・兼平・みちもり・忠
度・景清・松風・ゆや・野々
宮・はせを・江口・井つ・夕
かほ・朝顔・定家・*三井て
ら・*百万・*桜川・土車・小
塩・むつら・西行桜・遊行柳・
たえま・海士・とをる・大会・
鞍馬天狗・せかひ・山うは・舟
弁慶・紅葉かり・そとは小町・
関寺小町・通小町・清重・にし
きと・*夜うちそか・*小袖そ
か・春栄・こかふ・*蘆荊・*
しねんこし・*東岸居士・*は
うか僧・*あたか・*浮舟・*

玉かつら・*かんやうきう・*
くわうてい・*松虫・*①にし
き・*かんたん・唐船・道明
寺・立田・三輪・二人しつか・
かふう・せつ生石・かきつは
た・小蝶・かしわさき・ひたち
帯・うこん・道成寺・あこき・
ともな・か・けんし供養・ひか
き・せんしゆ・やうきひ・ろふ
たいこ・つな・かつらき・くわ
けつ・なき不動・ぬえ・正そ
ん・かなわ・采女・せいくわん
寺・宇治頼政・はちの木・あり
とをし・しやうく・志賀・り
んさう・しらひけ・はなかた
み・羽衣・しやつきよう・長
良・舟橋・やうらふ・七きう
ち・経政・大やしろ・あやの
つ・み・大原御幸・吉野閑

①「音曲秘伝之抄」の（錦木）
は（錦戸）の誤りであろう。

（文献資料部 樹下文隆）



国文学研究資料館

第13回 国際日本文学研究集会

13th International Conference on Japanese Literature in Japan

とき：平成元年11月10日（金）～11日（土） ところ：国文学研究資料館

11月10日（金）

あいさつ（13：20～）

小山 弘 志（国文学研究資料館長）

研究発表（13：30～17：15）

①江戸初期文献による男色史

Paul SCHALOW（ラトガーズ大学）

①杜甫の「春望」と芭蕉

曹 元 春（東北師範大学）

③江戸時代の漢詩とリアリズム

Marguerite OYA（埼玉大学）

④『春雨物語』『日ひとつの神』の世界

金 玉 姫（お茶の水女子大学大学院）

⑤江戸文壇における『水滸伝』の形跡

胡 凱（吉林大学）

⑥『里見八犬伝』の龍女たち

小谷野 敦（東京大学大学院）

11月11日（土）

研究発表（10：30～11：40）

⑦夏目漱石の漢詩と小説とのかかわり
——『三四郎』における「雲」——

曾 秋 桂（広島大学大学院）

⑧日本近代文学における西洋演劇受容
——森 鷗外を中心に——

金子 幸 代（明治大学）

公開講演（13：00～15：30）—聴講無料—

戯作の作者、作者の戯作

Sumie JONES（インディアナ大学準教授）

春琴と佐助

秦 恒 平（作家）

用 語
参 加 費
申 込 方 法
参加申込締切
連 絡 先

日 本 語

3,000円

はがきに①氏名（ふりがな）②住所③現職（所属）④専攻を記してお申し込みください。

平成元年10月31日（火）当日受付もいたします。

国文学研究資料館研究情報部情報室内

国際日本文学研究集会事務局

〒142 東京都品川区豊町1-16-10 電話03(785)7131 内線402・403

彙報

委員会日誌

平成元年

5月8日 国際日本文学研究集

会委員会(第一回)

5月23日 国文学文献資料収集

計画委員会(第一回)

5月30日 国文学文献資料調査

員会議(総会)

6月14日 文献目録委員会(第

一回)

7月14日 共同研究委員会(第

一回)

7月20日 文献目録委員会(第

二回)

9月1日 国際日本文学研究集

会委員会(第二回)

9月7日 情報処理システム運

用委員会(第一回)

評議員会の開催について

平成元年六月二十八日付で国立学校設置法等の一部改正が行われ、従来の評議員で構成する会議が評議員会という合議体となり、第一回評議員会が、平成元年七月十日(月)に開催され、会長に阿部秋生評議員が、副会長に児玉幸多評議員がそれぞれ就任した。議

事は、国文学研究資料館名誉教授の承認、管理運営の概況、昭和六十三年度事業報告及び平成二年度概算要求について評議が行われた。

運営協議員会議の開催について

本年度第一回運営協議員会議が平成元年六月二十三日(金)に開催され、議事は、国文学研究資料館名誉教授の候補者、教官人事、管理運営の概況、昭和六十三年度事業報告及び平成二年度概算要求について協議が行われた。

外国人研究員

ジャクリヌ・ビジョー

フランス共和国

現職 パリ第七大学教授

研究題目 お伽草子の研究

期 間 平成元年4月5日～平成元年9月4日

公立大学研修員

石川 一

現職 広島女子大学文学部

助教授

研究題目 新古今歌人の研究

期 間 平成元年10月1日～平成2年3月31日

外国出張

松方 純

渡航先 アメリカ合衆国

目的 情報検索システム及びネットワークシステムの調査

期 間 平成元年7月22日～平成元年7月30日

山崎 誠

小峯 和明

竹下 義人

渡航先 アメリカ合衆国

目的 在米国文学資料の所在に関する調査

期 間 平成元年8月20日～平成元年9月5日

安藤 正人

渡航先 イタリア

目的 第二回アーキビスト養成国際シンポジウム出席及び文書館専門職の養成に関する調査研究

期 間 平成元年9月3日～平成元年9月12日

海外研修旅行

森 安彦

渡航先 韓国

目的 歴史遺跡等の調査と

資料館(博物館)の視察

期 間 平成元年9月3日～平成元年9月10日

岡 雅彦

渡航先 アメリカ合衆国

目的 カリフォルニア大学及びハーバード大学の和書調査

期 間 平成元年9月10日～平成元年10月10日

人事異動(平成元年3月～平成元年8月)

(採用)平成元年4月1日付

文部教官(文献資料部助手)

深澤真二

文部教官(整理閲覧部助手)

加藤洋介

(転入)平成元年4月1日付

文部教官(研究情報部教授)

新井栄蔵(奈良女子大学教授)

文部教官(研究情報部助教授)

松方 純(東京大学助手から)

(配置換)平成元年4月1日付

文部教官(文献資料部助教授)

岡 雅彦(整理閲覧部助教授)

(転出)平成元年4月1日付

文部教官(史料館助手)

笠谷和比古(国際日本文化研究センターへ)

(停年退職)平成元年3月31日限り

文部教官(研究情報部教授)

棚町知弥(園田学園女子大学就職)

(辞職)平成元年3月31日付

文部教官(文献資料部教授)

渡邊守邦(実践女子大学就職)

文部教官(文献資料部助手)

吉海直人(同志社女子大学就職)

文部教官(整理閲覧部助手)

小野尚志(帝京大学就職)

(客員教授)平成元年4月1日

平成2年3月31日

文献資料部 大曾根章介(中央大

学教授)

(併任)平成元年4月1日付

研究情報部長 山中光一

(併任)平成元年4月1日

平成元年9月30日

文部教官(文献資料部助教授)

森 正人(熊本大学助教授)

(配置換)平成元年7月1日付

文部教官(史料館助手)

山田哲好(史料館事務官から)

国文学研究資料館名誉教授の称号授与

国文学研究資料館名誉教授称号授与規程に基づき、平成元年7月10日付けで、次の二名の方に名誉教授の称号が授与された。

○棚町知弥 大正14年8月31日生 昭和56年4月1日から平成元年3月31日まで教授として在職。

○渡邊守邦 昭和12年11月2日生 昭和52年4月1日から助教として在職、引続き昭和59年4月1日から平成元年3月31日まで教授として在職。

国文学研究資料館永年勤続者の表彰
国文学研究資料館永年勤続者表彰規程に基づき、平成元年5月1日付けで、次の方に表彰状を授与し、記念品の銀盃を贈呈した。

○黒瀧裕(管理部会計課総務係長)

第18回 特別展示
11月1日(水)~11月15日(水)
(日曜祝日を除く)於:展示室
新収資料展
昭和60~昭和62年度期

文庫紹介⑬

八戸市立図書館 南部家文庫・百仙洞文庫

南部家家臣の相互扶助組織であった書物仲間を継承、明治七年八戸書籍縦覧所が発足して以来の継続した歴史を持つ図書館で、安藤昌益資料の整備など充実した内容と活動とで知られている。

南部家本は、寛文四年(一六六四)に盛岡藩から分藩して二万石を領した八戸藩主南部家の蔵書で、その大半は明治初年の廃藩置県で撤収されるまで江戸麻布市兵衛町の藩邸に伝来されていた書籍であった。その一部は散佚したが、二千点一万五千冊に及ぶ国書、二百点二千冊程の漢籍・準漢籍は昭和四十二年八戸市立図書館に寄託された。程なく東北地区の国文研究者による調査が進み、途中からは折しも発足した国文学研究資料館の調査を兼ねた整理が加えられて、「八戸市立図書館国書分類目録一」が当館の監修で刊行された(なお、「漢籍分類目録」へ東大東洋文化研究所監修もある)。

五代藩主智信が寛保延享年間に大量に書写させた兵法書・馬書が目立つが、国文学関係では宝暦年間に書写収集させた歌書、そして俳書・読本・実録(敵討)物が豊富で、就中、歌書は(地域として

の)江戸の堂上派武家歌壇資料として注目される(国元八戸のものではなく江戸屋敷伝来本である)。即ち、中院通茂の学統を引く指導者で、いずれも麻布に住んだ連阿(享保期、武者小路実陰門。時宗僧)とその門弟亨弁(元文一宝曆。烏丸光栄門。日蓮宗僧)の二代にわたる歌書(中古中世の撰集・歌学書・物語等を含み、当代の歌作・歌論・文章に及ぶ)が基幹をなしているのである。

百仙洞文庫は八戸町長を勤めた北村益(号百仙洞古心)氏の旧蔵書で、子孫の作家北村小松氏の寄贈本。中心は俳書で、四世星霜庵の集書等約二百点がある(「国書分類目録二」所収)。

当館では、このほかの遠山家家老職)本、書物仲間等固有図書、八戸青年会本等の和本全ての調査を終了しており、このうち南部家本は収集(マイクロフィルムに撮影)も完了し利用可能である。

八戸駅からバスで十五分。市内中心部の長者公民館隣(〒〇三二八戸市大字糠塚下道二一)。電話〇一七八一三二一〇(二六六)の新館に近年移転した。休館日、月末、祝日。(文献資料部 松野陽一)

国文学研究資料館評議員

任期 昭和63年7月1日～平成2年6月30日

- 阿部 秋生 東京大学名誉教授、実践女子大学名誉教授
- 秋山 慶 東京女子大学文学部教授、東京大学名誉教授
- 猪瀬 博 学術情報センター所長、東京大学名誉教授
- 今井 源 梅光女学院大学文学部教授、九州大学名誉教授
- 上山 春平 京都国立博物館長、京都大学名誉教授
- 小田切 進 立教大学文学部教授、日本近代文学館理事長
- 加藤 周一 東京都立中央図書館長
- 京極 純一 東京女子大学長、東京大学名誉教授
- 児玉 幸多 学習院大学名誉教授
- 齋藤 正 国立劇場会長
- 阪倉 篤義 甲南女子大学文学部教授、京都大学名誉教授
- 田中 裕 大阪大学名誉教授
- 土田 直鎮 国立歴史民俗博物館長、東京大学名誉教授
- 坪井 清足 大阪文化財センター理事長
- 中井 信彦 慶應義塾大学名誉教授
- 橋本 不美男 早稲田大学文学部教授
- 林 大 国立国語研究所名誉所員
- 秀村 選三 久留米大学比較文化研究所教授、九州大学名誉教授
- 松田 智雄 東京大学名誉教授
- 宮川 満 大阪教育大学名誉教授

国文学研究資料館運営協議員

任期 昭和63年8月1日～平成2年7月31日

- 有吉 保 日本大学文学部教授
- 伊藤 正義 大阪市立大学文学部教授
- 石井 進 東京大学文学部教授
- 稲賀 敬二 広島大学文学部長、同文学部教授
- 久保田 淳 東京大学文学部教授
- 小林 清治 東北学院大学文学部教授、福島大学名誉教授

国文学文献資料収集計画委員会委員

任期 平成元年4月1日～平成2年3月31日

- 伊藤 敬 藤女子大学文学部教授
- 表 章 法政大学能楽研究所長、同文学部教授
- 神作 光一 東洋大学長、同文学部教授
- 平澤 五郎 慶應義塾大学附属研究所所長、同教授
- 平林 盛得 宮内庁書陵部図書調査官
- 富士 昭雄 駒澤大学文学部教授
- 藤岡 忠美 昭和女子大学文学部教授
- 松平 進 甲南女子大学文学部教授
- 森川 昭 東京大学文学部教授
- 山下 宏明 名古屋大学文学部教授

文献目録委員会委員

任期 平成元年4月1日～平成2年3月31日

- 佐竹 昭廣 名城大学文学部教授、京都大学名誉教授
- 尾藤 正英 川村学園女子大学文学部教授、東京大学名誉教授
- 平澤 五郎 慶應義塾大学附属研究所所長、同教授
- 水谷 静夫 東京女子大学文学部教授
- 新井 栄蔵 国文学研究資料館研究情報部教授
- 長谷川 強 国文学研究資料館文献資料部教授
- 原島 陽一 国文学研究資料館整理閲覧部教授
- 本田 康雄 国文学研究資料館文献資料部教授
- 松野 陽一 国文学研究資料館史料部教授
- 森 安彦 国文学研究資料館史料部教授
- 安澤 秀一 国文学研究資料館史料部教授
- 安永 尚志 国文学研究資料館研究情報部教授
- 山中 光一 国文学研究資料館研究情報部教授

情報処理システム運用委員会委員

任期 平成元年4月1日～平成2年3月31日

- 小島 孝之 立教大学文学部教授
- 小町谷 照彦 東京女子大学教育学部教授
- 滝藤 満義 横浜国立大学教育学部教授
- 田中 榮一 新潟大学教育学部教授
- 野山 嘉正 東京大学文学部助教授
- 浜野 卓也 山口女子大学文学部教授
- 原 道生 明治大学文学部教授
- 安田 尚道 青山学院大学文学部教授
- 石田 晴久 東京大学大型計算機センター教授
- 稲岡 耕二 東京大学教養学部教授
- 井上 如 学術情報センター教授
- 大橋 琢也 国立国会図書館総務部情報処理課長
- 杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究部教授
- 土田 衛 大阪女子大学名誉教授
- 照井 武彦 国立歴史民俗博物館情報資料研究部教授
- 西村 恕彦 東京農工大学工学部教授
- 濱田 啓介 京都大学教養部教授
- 星野 聰 京都大学大型計算機センター教授
- 堀内 秀見 青山学院大学文学部教授
- 水谷 静夫 東京女子大学文学部教授
- 村上 學 名古屋工業大学工学部教授

国文学文献資料調査員

任期 平成元年4月1日～平成2年3月31日

- 家井 美千子 岩手大学人文社会科学部講師
- 加藤 幸一 奥羽大学文学部講師
- 今野 厚子 尚絅女学院短期大学助教授
- 佐藤 晃 山形女子短期大学講師
- 鈴木 則郎 東北大学文学部教授

〔北海道・東北〕

高橋伸幸 札幌大学女子短期大学部教授
 田嶋一夫 いわき明星大学人文学部教授
 寺島恒世 山形大学教育学部助教授
 豊島秀範 弘前学院大学文学部助教授
 永田信也 北海道教育大学旭川分校助教授
 名子喜久雄 山形大学教育学部助教授
 錦摩光 秋田大学教育学部教授
 山本陽史 國學院女子短期大学非常勤講師
 山形大学教育学部講師

〔関東〕

石川泰水 群馬県立女子大学文学部助教授
 石川了 大妻女子大学文学部助教授
 伊藤一男 東京学芸大学教育学部助手
 小田幸子 法政大学能楽研究所兼任所員
 近藤瑞男 共立女子大学文学部助教授
 佐藤悟 実践女子大学文学部講師
 鈴木健一 東京大学教養学部助手
 鈴木俊幸 国士舘短期大学講師
 武井和人 埼玉大学教養部助教授
 多田一臣 千葉大学文学部助教授
 田中士 土浦短期大学講師
 花田富二夫 大妻女子大学短期大学部助教授
 林望 東横学園女子短期大学助教授
 藤田洋治 東京成徳短期大学講師
 古相正美 明治大学非常勤講師
 松井健児 昭和学院短期大学講師
 山中玲子 法政大学第一教養部兼任講師

〔中部〕

稲垣泰一 金城学院大学文学部教授
 稲田篤信 富山大学教養部助教授
 梅原恭則 信州大学教育学部助教授
 大谷俊太 南山大学文学部助教授
 岡本勝 愛知教育大学教育学部教授

〔近畿〕

島原泰雄 皇學館大学文学部助教授
 鈴木孝庸 新潟大学教養部助教授
 滝澤貞夫 信州大学教育学部教授
 長島弘明 名古屋大学文学部助教授
 長友千代治 愛知県立大学文学部教授
 西村聡 金沢大学文学部助教授
 服部直子 愛知女子短期大学非常勤講師
 深津睦夫 皇學館大学文学部講師
 安田徳子 聖徳学園岐阜教育大学教育学部助教授
 柳澤良一 金沢女子大学文学部助教授
 矢野貫一 愛知県立女子短期大学教授
 綿拔豊昭 富山女子短期大学講師

〔中国・四国〕

阿部泰郎 大阪大学文学部助手
 佐伯真一 帝塚山学院大学文学部助教授
 高橋圭一 大谷女子大学文学部講師
 高瀬唯二 大阪学院短期大学助教授
 藤原克巳 神戸大学文学部助教授
 堀口康生 大阪女子大学文学部助教授
 山本登朗 光華女子大学文学部助教授
 吉海直人 同志社女子大学文学部講師
 和田道子 梅花短期大学助教授

〔九州〕

宮田尚 梅光女学院大学短期大学部教授
 余田充 四国女子大学短期大学部助教授
 板坂耀子 福岡教育大学教育学部教授
 井上敏幸 福岡女子大学文学部教授
 小川豊生 大分工業高等専門学校校助教授
 竹村信治 福岡女子大学文学部助教授
 田中道雄 佐賀大学教養部教授
 中本環 熊本大学教育学部教授
 山田洋嗣 福岡大学人文学部助教授

国文学文献資料特別調査員

福田秀一 国際基督教大学教養学部教授
 鷹尾純 愛知淑徳短期大学教授
 森田蘭 四国女子大学文学部教授
 白井宏 四国女子大学文学部助教授
 富久和代 四国女子大学文学部助教授
 近藤容司 四国女子大学文学部講師
 母利司朗 岐阜大学教育学部助教授
 伊藤正義 大阪市立大学文学部教授
 廣田哲通 大阪女子大学文学部助教授
 黒田彰 愛知県立大学文学部助教授
 牧野和夫 実践女子大学文学部助教授
 橋本直紀 羽衣学園短期大学助教授
 小林健二 大谷女子大学文学部助教授
 播本眞一 大東文化大学文学部講師
 神尾暢子 大阪教育大学教育学部教授
 名和修 陽明文庫主事
 長谷川瑞 中京大学文学部教授
 後藤重郎 中京大学文学部教授
 渡邊信和 同朋大学仏教文化研究所研究員
 大島龍彦 東邦高等学校教諭
 渡辺憲司 立教大学文学部助教授

久保田啓一 梅光女学院大学文学部講師

服部 仁 同朋大学文学部助教授

延廣 真治 東京大学教養学部教授

下垣内 和人 広島文教女子大学短期大学部教授

池田 正志 甲南高等学校教諭

菊川 丞 関西外国語大学外国語学部助教授

高橋 喜一 梅花女子大学文学部教授

源 義春 神戸女子大学非常勤講師

佐藤 恒雄 香川大学教育学部教授

大伏 春美 徳島文理大学文学部講師

田村 憲治 愛媛大学文学部助教授

国際日本文学研究会集委員会委員

任期 平成元年4月1日～平成2年3月31日

アラン・ターニ 清泉女子大学文学部教授

池田 重 青山学院大学非常勤講師

芳賀 徹 東京大学教養学部教授

長谷川 泉 国学院大学非常勤講師

福田 秀一 国際基督教大学教養学部教授

共同研究委員会委員

任期 平成元年4月1日～平成2年3月31日

稲賀 敬二 広島大学文学部長・同文学部教授

大曾根 章介 中央大学文学部教授

島津 忠夫 大阪大学教養部教授

曾倉 岑 青山学院大学文学部教授

鳥越 文藏 早稲田大学文学部教授

中野 三敏 九州大学文学部教授

古典籍総合目録委員会委員

任期 平成元年4月1日～平成2年3月31日

菊地 勇次郎 大正大学文学部教授

坂下 精一 国立国会図書館図書部古典籍課長

柴田 光彦 跡見学園女子大学文学部教授

田中 久文 学術情報センター管理部長

堤 精二 お茶の水女子大学文教育学部教授

森川 彰 梅花女子大学文学部教授

共同研究員

任期 平成元年4月1日～平成2年3月31日

課題名「近世儒林伝の研究」

板坂 耀子 福岡教育大学教育学部教授

飯倉 洋一 山口大学教養部講師

久保田 啓一 梅光女学院大学文学部講師

課題名「関東天台に関する調査と研究」

廣田 哲通 大阪女子大学文学部助教授

阿部 泰郎 大阪大学文学部助手

落合 博志 東京大学大学院博士課程

田中 貴子 広島大学文学部助手

牧野 和夫 実践女子大学文学部助教授

課題名「近世出版史の研究」

朝倉 治彦 四日市大学経済学部教授

今田 洋三 近畿大学教養部教授

鈴木 俊幸 国士館短期大学講師

中山 尚夫 東洋大学文学部助手

課題名「松宇文庫の調査研究」

雲英 末雄 早稲田大学文学部教授

東 聖子 十文字学園短期大学講師

池田 俊朗 京北高等学校教諭

市古 夏生 百合女子大学文学部助教授

宇城 由文 京都外国語大学外国語学部講師

大石 房子 お茶の水女子大学大学院博士課程

加藤 定彦 立教大学一般教育助教授

清登 典子 放送大学埼玉学習センター助教授

塩崎 俊彦 親和女子大学文学部教授

島本 昌一 法政大学第二高等学校教諭

田中 善信 武蔵野女子大学文学部教授

谷地 快一 東洋大学短期大学部助教授

永井 一彰 奈良大学文学部助教授

中野 沙恵 東京女子医科大学医学部講師

萩原 恭男 大東文化大学文学部教授

藤田 眞一 京都府立大学女子短期大学部助教授

母利 司朗 岐阜大学教育学部助教授

森川 昭 東京大学文学部教授

矢羽 勝幸 上田女子短期大学教授

渡邊 志津子 大阪大学医療技術短期大学部講師

課題名「近世演劇研究情報データベース編纂の研究」

鳥越 文藏 早稲田大学文学部教授

赤間 亮 早稲田大学演劇博物館助手

池山 晃 東京大学文学部大学院博士課程

鹿倉 秀典 関東短期大学講師

棚町 知弥 園田学園女子大学文学部教授

土田 公衛 大阪女子大学名誉教授

林 道生 明治大学文学部教授

原 浩一 東京大学先端科学技術センター助教授

堀 進 甲南女子大学文学部教授

松平 修 早稲田大学文学部大学院博士課程

和田 修 国文学研究資料館客員教授

課題名「日本文学の特質」—お伽草子の研究—

浅見 和彦 成蹊大学文学部教授

神野 藤昭夫 跡見学園女子大学文学部教授

佐竹 昭廣 成城大学文学部教授

外村 南都子 百合女子大学文学部教授

松本 隆信 元應慶義塾大学附属研究所軌道文庫教授

利用者へのお知らせ

◆「長井永太郎文庫」の利用について

長井濤生氏から御寄贈いただいた故長井永太郎氏の蔵書は、このたび整理が終わり、「長井永太郎文庫」として、ご利用いただけることになりました。

館報第30号でもご報告しましたが、「長井永太郎文庫」は、万葉集を中心とした国文学関係資料のコレクションで、点数は、七十九点(一、二四七冊、雑誌も含む)です。

複製本・活字本は、閲覧室のカード目録で、写本・版本は、「国文学研究資料館蔵和古書目録増加4」で、検索してください。文庫番号は「51」(請求記号の先頭の数字)となっています。

長井永太郎氏は、明治五(一八七二)年生まれ昭和三二(一九五七)年歿。金沢市の旧い医師の家に生まれ、長崎で医術(歯科)修行、金沢市のち台湾で開業しました。晩年は乞われて官幣大社・台湾神社に奉仕。和歌は少年時代より、特に万葉集研究に没頭し生涯

にわたり継続、徹底しました。佐佐木信綱主宰・竹柏会会員、また澤瀉久孝博士の指導をうけました。台湾日々新聞の歌壇の選者、歌会の主宰者としても活躍。万葉集と共に生きた人です。

◆文献複写料金について

前号の本欄でお知らせしましたように、四月から消費税導入に伴い、文献複写料金が改定になりました。新料金は次のとおりです。

○マイクロフィルム方式

- 基本料(一件) 一〇五円
- ポジ作製料(一コマ) 一〇円
- 撮影料(一コマ) 三〇円
- 印画紙による引伸料(紙焼写真)
 - A5判 六〇円
 - B5判 九〇円
 - A4判 一一五円
 - B4判 一七五円

○リーダープリンター及び電子複写方式(一枚)

五〇円

◆マイクログ資料のサービス区分変更について

今回、これまでにお知らせしたものをまとめて掲載いたします。

文庫No 所蔵者 変更内容

- 25 東京都立中央図書館 A↓B
- 32 水府明徳会彰考館 E↓B
- 51 大阪市立大学附属図書館 (森文庫) X↓B
- 52 伊達市開拓記念館 X↓A
- 63 徳島県立図書館(森文庫) E↓A
- 64 徳島県立図書館(木下眉城文庫) E↓A
- 65 徳島県立図書館(阿波国文庫) E↓A
- 67 東奥義塾図書館 X↓E
- 214 西尾市立図書館(岩瀬文庫) A↓B
- 260 東京都立中央図書館(東京誌料) A↓B

◆来館利用者への注意事項及びお願い

- ・ 閲覧室入室の際
 - ・ カバン・荷物・袋物等を持って閲覧室に入ることではできません。
 - ・ カバン等はロッカーに入れてから入室してください。
- ・ ワープロ・卓上計算機等の持ち込みはご遠慮ください。特に携帯用複写機の持ち込み、使用は固く

お断わりします。

・ 私有の図書、他の図書館から借りた図書を持ち込みする場合は、その図書を提示してください。(図書持込票)をお渡しします。

・ 入室は、利用者本人に限ります。同伴者の入室はご遠慮ください。特に付き添いが必要とされる方はお申し出下さい。

・ 高校生以下の方の利用はできません。

〈閲覧室内で〉

・ 閲覧室内は、もちろん禁煙です。また、閲覧室内への飲食物の持ち込み及び飲食は固くお断りします。喫煙・飲食は、一階ロビー(池側)でお願いします。

・ 資料の閲覧室外への持ち出しは固くお断りします。

〈資料利用の際〉

・ 写本・版本等の閲覧の際は、鉛筆以外の筆記用具の使用は禁止します。

・ 複写物を当館及び原資料所蔵者に無断で複製・刊行・翻刻等を使用することは固くお断りします。

平成元年度秋季学会開催一覧

情報室

国語国文学会連絡協議会に参加する学会の秋季大会予定は次のとおりである。学会掲出は五十音順。以下①事務局、②大会開催日、③会場。②③の記入のない学会は大会予定なしか、または大会期日未定。

解釈学会 ①千一〇千代田区神

田神保町二四六第20勝ビル

教育出版センター新社内

近代語学会 ①千一六〇新宿区北

新宿三〇一〇一五〇七

国語学会 ①千一〇千代田区神

田錦町三十一武蔵野書院気付

学 ②一〇月二八、二九日③茨城大

古事記学会 ①千一五〇渋谷区東

四一〇一八国学院大学文学

部 部日本文学第二研究室

古代文学会 ①千一九三八王子市

桐田町五六一七工藤隆方

上代文学会 ①千一五四世田谷区

駒沢一―二三―一駒沢大学文学

部 部小野寛教授研究室

説話文学会 ①千一五四世田谷区

太子堂一―七昭和女子大学文学

部 部日本文学科松田研究室内②一

二月二日③都留文科大

全国大学国語国文学会 ①千一〇

一 千代田区猿楽町一―三一桜

楓社気付②一〇月二八、三〇日

③高野山大学

中古文学会 ①千一六九新宿区西

早稲田一―六一早稲田大学教

育学部中野幸一研究室内②一〇

月二―一二日③愛知淑徳大

学・短期大学 記念会堂

中世文学会 ①千一三三文京区本

郷七―三―一東京大学文学部国

文学研究室内②九月三〇、一〇

月二日③札幌大学

日本演劇学会 ①千一六九新宿区

西早稲田一―六一早稲田大学

演劇博物館内②一〇月一八、一

九日③京都龍谷大学

日本歌謡学会 ①千一五〇渋谷区

東四一〇一八国学院大学文

学部日本文学第七研究室内②一

〇月一四、一五、日③甲南大学

日本近世文学会 ①千一〇二千代

田区三番町六 二松学舎大学近

世文学研究室内②一〇月一、

一三日③島根大学

日本近代文学会 ①千一二二文京

区白山五―二八―二〇東洋大学
文学部国文学研究室内②一〇月
二八、二九日③同志社大学(今
出川校舎)

日本口承文芸学会 ①千一一四北

区西ヶ原四一五―一二東京外

国語大学A A研川田研究室気付

日本文学協会 ①千一七〇豊島区

南大塚二―一七―一〇②一〇月

二五、二六日③白百合女子大学

日本文学風土学会 ①千一二四川

崎市多摩区東三田二―一―一専

修大学文学部国文学研究室内②

一〇月二五日③専修大学神田校

舎

日本文芸研究会 ①千九八〇仙台

市青葉区川内東北大学文学部内

②一〇月四日③東北大学文学部

文・教大講義室

俳文学会 ①千六五一―一神戸

市北区鈴蘭台北町七―一三一

親和女子大学国文学研究室内②

一〇月二―三、三日③鶴岡市中

央公民館

表現学会 ①千七三〇広島市中区

千田町一丁目一―八九広島大学

総合科学部永尾研究室内

仏教文学会 ①千六〇〇京都市中

京区西ノ京壺ノ内町八―一花園

大学国文学研究室内 千一七四

板橋区高島平一―九―一大東文
化大学文学部日本文学科関口研
究室内(支部)

萬葉学会 ①千五六五吹田市千里

山東三関西大学国文学研究室内

②一〇月二―二四日③大谷女

子大学

美夫君志会 ①千四六六名古屋市

昭和区八事本町一〇―一中央大学

文学部国文学研究室内

和歌文学会 ①千一〇二千代田区

三番町六 二松学舎大学国文学

研究室内②一〇月一〇、一二日

③甲南大学

国文学研究資料館報 第三十三号

平成元年九月発行

編集・発行者

国文学研究資料館

東京都品川区豊町一、二六、一〇

郵便番号一四二

電話(七八五)七三三二(代)

印刷所 株式会社 三興